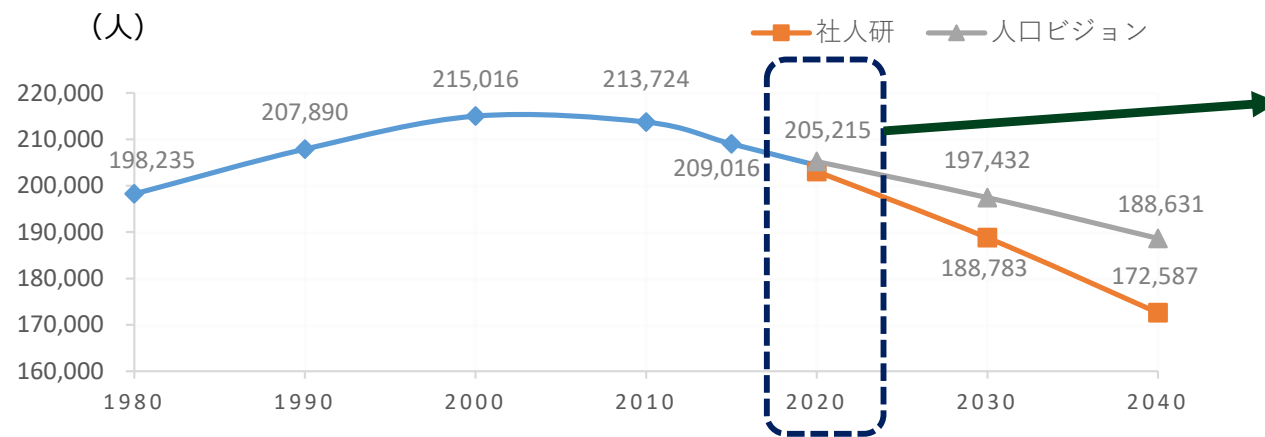


統計でみる佐久地域の現状

令和4年6月9日

佐久地域振興局

○人口推移



出典：2020までは国勢調査、2020年以降はしあわせ信州創造プラン2.0佐久地域計画における推計値（社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン（地方創生総合戦略））

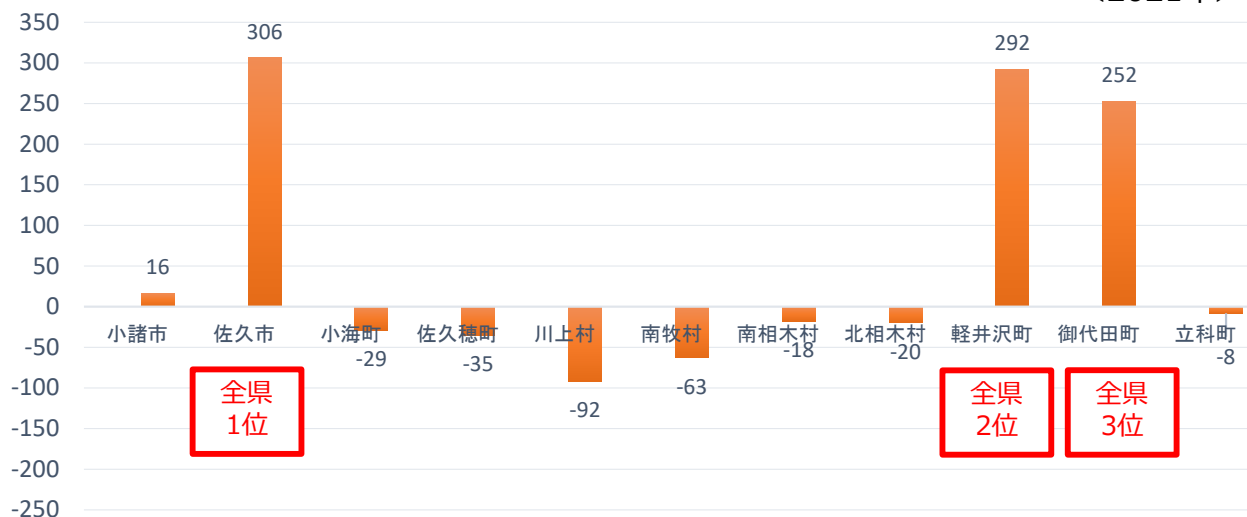
実績・推計の別	2020年人口
国勢調査（実績）	204,416
社人研（2018推計）	203,050
人口ビジョン（2018推計）	205,215

・2020年の人口は社人研準拠推計値を1,366人上回る204,416人

・ただし、佐久地域計画の目標値（市町村人口ビジョン推計値）は達成できず

○社会増減数

<2021年>



・小諸市、佐久市、軽井沢町、御代田町は、社会増

※人口増減数 = 自然増減数 + 社会増減数

* 自然増減数
出生者数と死亡者数の差

* 社会増減数
転入者数 - 転出者数 + その他増減数

出典：毎月人口異動調査

○新幹線による移動時間（例）

■はくたか556号

軽井沢駅 ～ 東京駅 **1時間3分**

佐久平駅 ～ 東京駅 **1時間13分**

出典：「NAVITIME」より佐久地域振興局調べ

○高速道路による移動時間（例）

小諸IC ～ 練馬IC **1時間44分**

八千穂高原IC ～ 練馬IC **1時間57分**

出典：「NEXCO中日本ドライバースサイト」より佐久地域振興局調べ

○定期券利用者数

<令和2年度>

佐久平駅	軽井沢駅	長野駅	上田駅	飯山駅
979	438	1,249	404	105

※新幹線駅別乗車人員（1日平均）

出典：JR東日本「乗車人員データ」より建設部まとめ

・首都圏への通勤、通学も可能

・中部横断自動車道について、未整備区間（八千穂高原ICから長坂JCT（仮称））の建設促進と早期全線開通が強く望まれている

※開通後

八千穂高原IC ～ 八王子IC **1時間57分**
（現在：2時間23分）

出典：「NEXCO中日本ドライバースサイト」、「NAVITIME」及び佐久地域振興局試算（未整備区間：70km/h）

・佐久平駅、軽井沢駅は他の駅よりも定期券を利用する者が多い

⇒ 通勤・通学に一利あり

【地域交通（市町村間交通）が自動車頼み】

○世帯あたりの乗用車保有台数

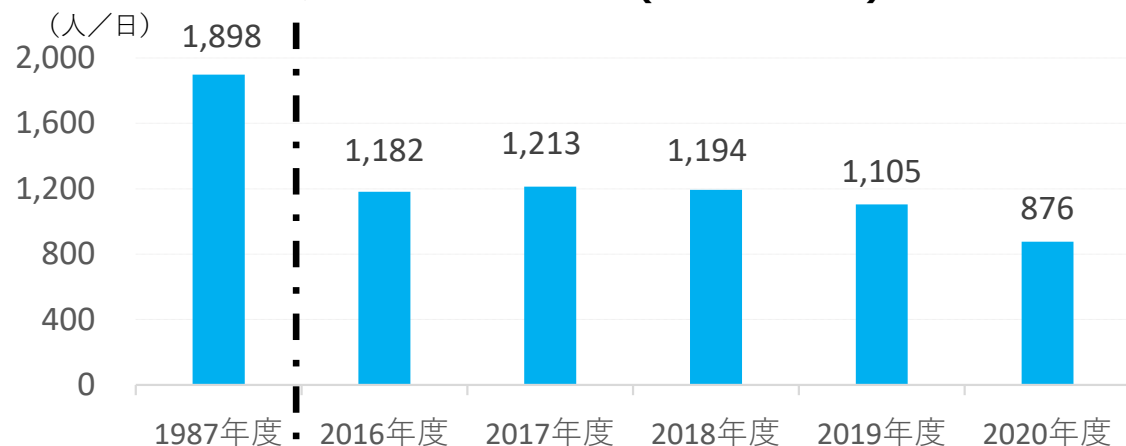
<2015年>

	佐久地域	県	県市部	県郡部
世帯あたり乗用車保有台数	1.74 >	1.68	1.66	1.81
保有台数伸び率（30年前比）	2.42 >	2.27	2.31	2.12

出典：北陸信越運輸局長野運輸支局「自動車保有台数」をもとに企画振興部調べ

- ・自動車保有率は高い
 - ・保有台数の伸び率も大きい
- ⇒ 自動車が普及している

○小海線平均通過人員推移（小諸～小淵沢）



出典：JR東日本「路線別平均通過人員推移グラフ」

- ・コロナ前より、利用者は減少傾向
- ・コロナ禍が重なり、利用者数は大幅に減少

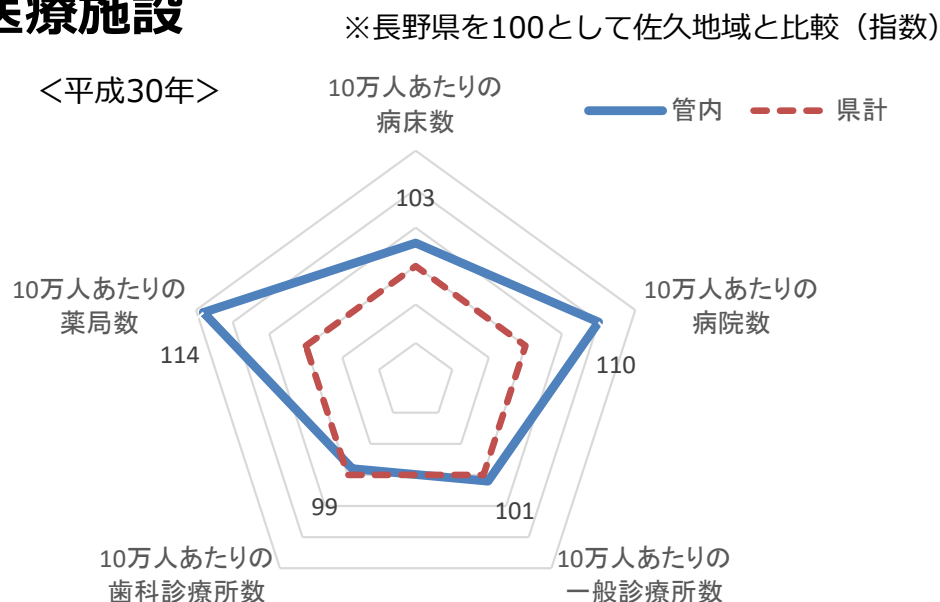
○市町村を跨ぐバス路線の廃止等

路線名	経路	状況
佐久上田線	佐久市～小諸市～東御市～上田市	路線廃止（R3.9月）
中仙道線	佐久市～立科町	民間事業者による自主運行廃止（R3.9月）

- ・公共交通を民間事業者の独立採算により維持していくことは困難な局面に

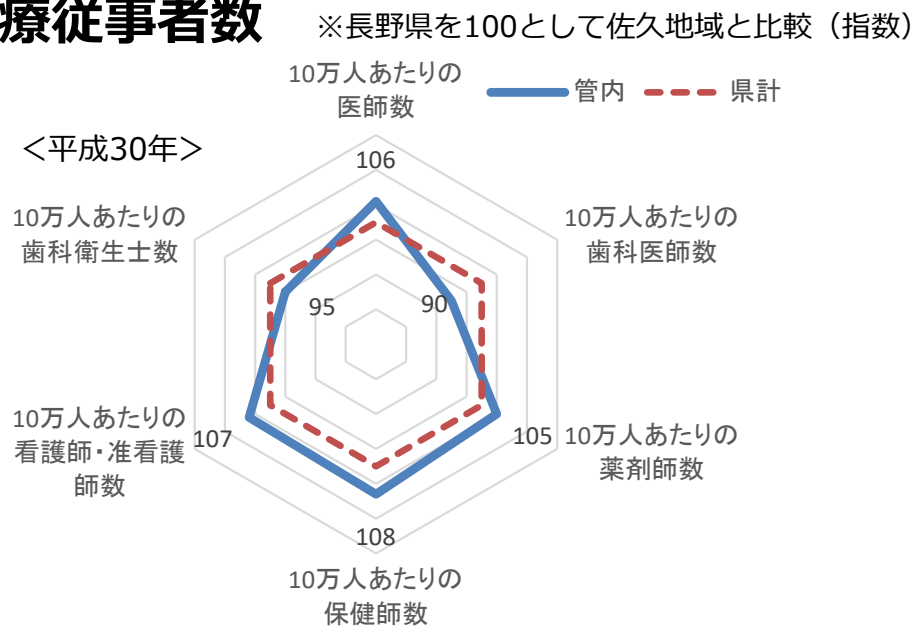
出典：佐久地域振興局調べ

○医療施設



出典：厚生労働省「医療施設調査」

○医療従事者数



出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」
「保健師・(准)看護師・歯科衛生士業務従事者届」

・例えば病院は、管内にバランスよく13施設が存在

- ・小諸高原病院、浅間南麓こもろ医療センター（以上、小諸市）
- ・佐久総合病院、佐久総合病院佐久医療センター、川西赤十字病院、金澤病院、くろさわ病院、雨宮病院、国保浅間総合病院（以上、佐久市）
- ・佐久総合病院小海分院（小海町）
- ・千曲病院（佐久穂町）
- ・軽井沢病院（軽井沢町）
- ・御代田中央記念病院（御代田町）

※R4.3月に小諸病院が診療所へ変更したため、左記統計値と異なる。

・歯科医師数が県平均を下回っているが、松本圏域が突出して多いため。

※歯科医師数（県を100とした場合）

- ①松本圏域（152）
- ②長野圏域（92）
- ③諏訪圏域（91）
- ④佐久圏域（90）

・一部町村からは、「保健師が不足している」等、意見あり。

※R4.5.25市町村企画振興課長会議

⇒ **地域間の偏在は課題**

【医療体制の充実／農村医療の伝統】

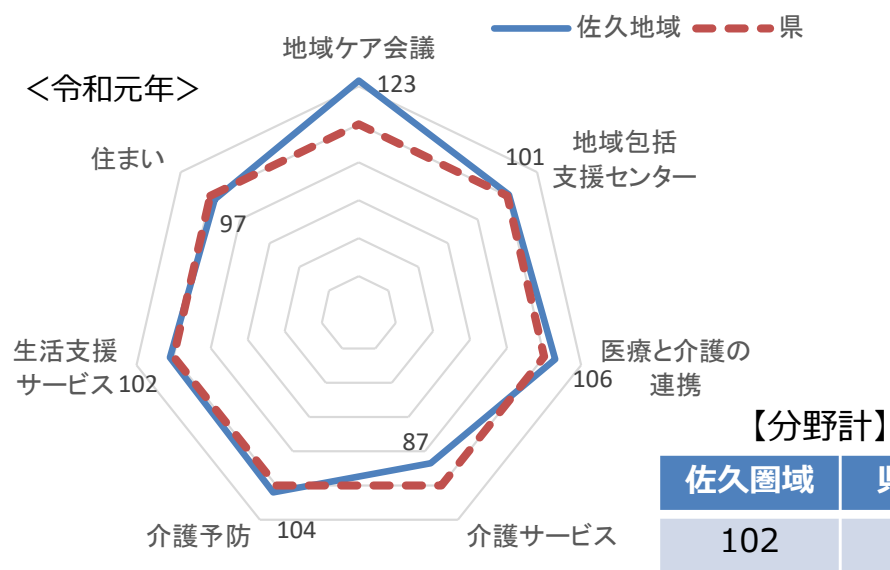
○介護保険の利用状況（65歳以上）

※長野県を100として佐久圏域と比較（指数）



○地域包括ケア体制の構築状況

※長野県を100として佐久圏域と比較（指数）



○高齢化の状況

	佐久圏域	県平均
高齢化率（65歳以上）	32.5	32.3
後期高齢化率（75歳以上）	32.3	32.5
要介護（要支援）認定率	14.9	17.3

・要介護（要支援）認定率は県全体の水準を大きく下回っている

・介護サービスにおいては、居宅サービス等の受給者数の水準が県全体を下回っている一方で、施設サービスの受給者数の水準は県全体を上回っている

出典：いずれも、第8期長野県高齢者プラン

【豊かな自然環境／圧倒的な晴天率／熱帯夜がない冷涼な気候】

○年間降水量

<令和3年>

順位	地点	年間降水量
1	上田	992
2	佐久	993
3	長野	1,075
・	・	・
9	松本	1,216
・	・	・
39	飯島	2,505
・	・	・
県平均	全45地点	1,845

出典：気象観測統計をもとに佐久地域振興局調べ

- ・ 年間降水量が少ない
⇒ 晴天率が高い

※佐久管内の他の観測地点の状況

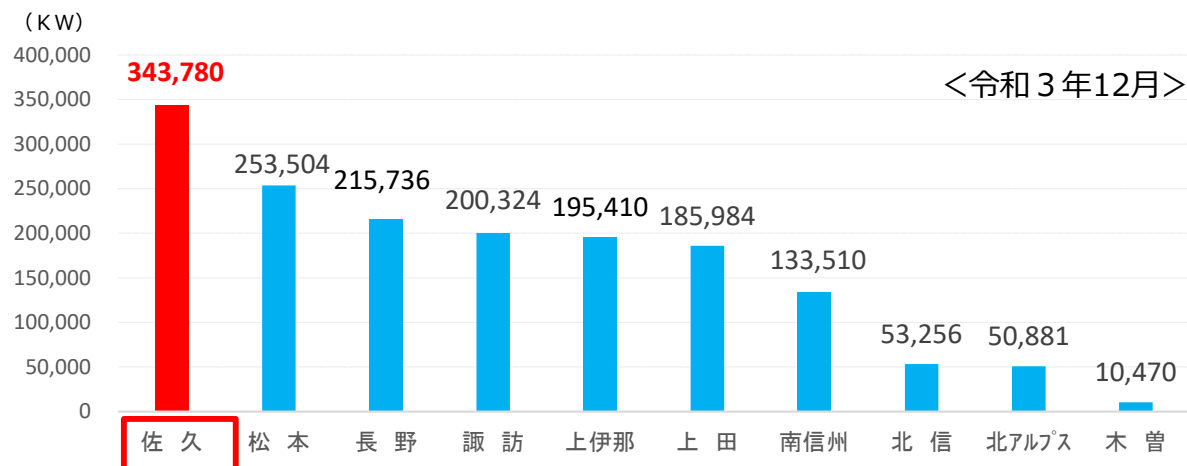
- ④北相木 (1,077)
- ⑥立科 (1,155)
- ⑪軽井沢 (1,311)
- ⑳野辺山 (1,709)

- ・ 日照時間も長い

※佐久市の日照時間 (2021年)

- 全国：6/845地点
- 県： 1/29地点 [出典：佐久市HP]

○再生可能エネルギー発電設備導入容量 (太陽光)



- ・ 高い晴天率を活かし、太陽光発電の普及が進む

※佐久地域における導入容量
全県計の約1/5 (20.9%)

出典：環境省「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト」

○地域ブランド調査

順位	市町村名
・	・
32	軽井沢
・	・
・	・
351	小諸市
・	・
・	・
431	佐久市
・	・
・	・
980	佐久穂町
・	・
・	・

- ・ 「地域ブランド調査2015」 認知度ランキング 市町村の結果
- ・ 全国1,000市区町村対象調査

出典：佐久穂町人口ビジョン

・ 自治体により認知度は様々

・ 佐久圏域の県民より、「ブランド力が弱い」「認知度・知名度が低い」との意見あり

※R4.3月 佐久地域懇談会

○新しい教育の場（一部を例示）

■一般社団法人森のようちえん ぴっぴ

- ・2007年 軽井沢の自然の中で、園舎を持たない野外保育として開園。
- ・長野県信州型自然保育（信州やまほいく）認定団体であり、多様な自然や地域の環境を活かした保育・幼児教育が特徴。

■ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン

- ・2014年 日本初の全寮制国際高校として軽井沢町に開校。
- ・日本人をはじめ、日本育ちの外国人や海外からの留学生など、多種多様なバックグラウンドを持つ生徒が在籍し、同じ教室で学び、寮での共同生活を送っている。

■学校法人西軽井沢学園

- ・2018年 日本で初めての行動分析学による共生の幼稚園として、御代田町に「サムエル幼稚園」を開校。
- ・発達に障害がある子どもを含め、一人ひとりに併せたオーダーメイドの個別支援を推進。
- ・佐久地域で新たな小学校を設立する計画がある。

■学校法人茂来学園 大日向小学校・大日向中学校

- ・2019年 日本初のイエナプラン教育校として佐久穂町に開校。
- ・一人ひとりの自主性と可能性を生かし、子ども自身が学習計画をたて、異年齢の集団で協働的に学んでいる。
- ・2022年4月には小学校の隣に中学校が開校。

■学校法人軽井沢風越学園

- ・2020年 軽井沢町に開校
- ・軽井沢風越公園近くにある2.2万坪の緑豊かな場所で、3歳～15歳の子どもたちが、じっくり、ゆったり、たっぷり、まざって、遊ぶ/学ぶ体験を積み重ねている。（幼少中混在校）

【高校・専門学校・大学の弱さ】

佐久地域の教育環境（他圏域との比較）

佐久地域は魅力ある小中学校（幼児教育）が多くあり、県内外から人々を引き付けている。一方、高校・大学は魅力が乏しいという指摘あり
 高校以降の学科構成を見ると、**地域医療・福祉を支える人材養成機関は充実しているものの、工業系・IT系の学校が他地域に比べ少ない**

	佐久地域 (204,416人)	上田地域 (193,898人)	諏訪地域 (193,838人)	上伊那地域 (179,892人)	南信州地域 (155,346人)
私立小中学校	軽井沢風越学園（義務教育学校） 大日向小・中学校 佐久長聖中学				どんぐり向方学園（義務教育学校）
県立高校（全 日制）	9校 37クラス 普通科 24クラス 農業科 3クラス 工業科 2クラス 商業科 4クラス 総合学科 2クラス 理数科 1クラス 音楽科 1クラス	5校 34クラス 普通科 21クラス 工業科 3クラス 商業科 1クラス 家庭科 2クラス 総合学科 6クラス 国際教養科 1クラス	9校 38クラス 普通科 28クラス 農業科 1クラス 工業科 5クラス 商業科 3クラス 家庭科 1クラス	7校 30クラス 普通科 19クラス 農業科 4クラス 工業科 3クラス 商業科 3クラス 理数科 1クラス	7校 29クラス 普通科 16クラス 農業科 4クラス 工業科 5クラス 商業科 2クラス 理数科 1クラス 国際教養科 1クラス
私立高校	佐久長聖高校 ISAK 地球環境（通信制）	上田西 コードアカデミー（通信制） さくら国際（通信制） ID学園（通信制）	東海大学付属諏訪	伊那西（女子高） つくば開成学園（通信制）	飯田女子（女子高、通信制） 天龍興譲（通信制）
大学	佐久大学	信州大学（繊維学部） 長野大学	諏訪東京理科大学	信州大学（農学部） 長野県看護大学 信州豊南短期大学 長野県南信工科短期大学校	（信州大学飯田サテライト） 飯田女子短期大学
短大	信州短期大学	上田女子短期大学 長野県工科短期大学校	長野県福祉大学校（諏訪市）		
専門学校	小諸看護専門学校（小諸市） 佐久総合病院看護専門学校（佐久市） 白田経理専門学校（佐久市） 専門学校アースビジネスカレッジ（佐久市）	信州上田医療センター附属看護学校（上田市） 上田総合文化専門学校（上田市） 上田静観ビジネス専門学校（上田市） 長野医療衛生専門学校（上田市） 専門学校長野ビジネス外語カレッジ（上田市） 長野救命医療専門学校（東御市）	諏訪赤十字看護専門学校（諏訪市） 諏訪中央病院看護専門学校（茅野市） 岡谷市看護専門学校（岡谷市） エブノン静観専門学校（諏訪市） 上條経理専修学校（岡谷市） 岡谷音楽専門学校（岡谷市） 八ヶ岳中央農業実践大学校（原村）	長野県公衆衛生専門学校（伊那市） やまと文化専修学校（駒ヶ根市）	飯田ビジネス専門学校（飯田市） 飯田コアカレッジ（飯田市）

※県HP等より佐久地域振興局調べ

赤字太字は工業・IT系の学科・学校
緑字太字は医療・福祉系の学科・学校

○通学人口の地域間流動

■小諸市

<2015年>

	流入	流出	流出入の差
全体	823	△938	△115
うち佐久市	303	△421	△118
うち上田市	92	△264	△172

- ・小諸市は、御代田町や東御市等から多くの流入があるが、佐久市や上田市へ流出
- ・上田市への流出数が特に大きい

■佐久市

<2015年>

	流入	流出	流出入の差
全体	1,486	△1,218	268
うち上田市	164	△293	△129
うち群馬県	22	△67	△45

- ・佐久市全体では流入超過だが、上田市には、流出超過
- ・一部が県外（群馬県高崎市等）へ流出

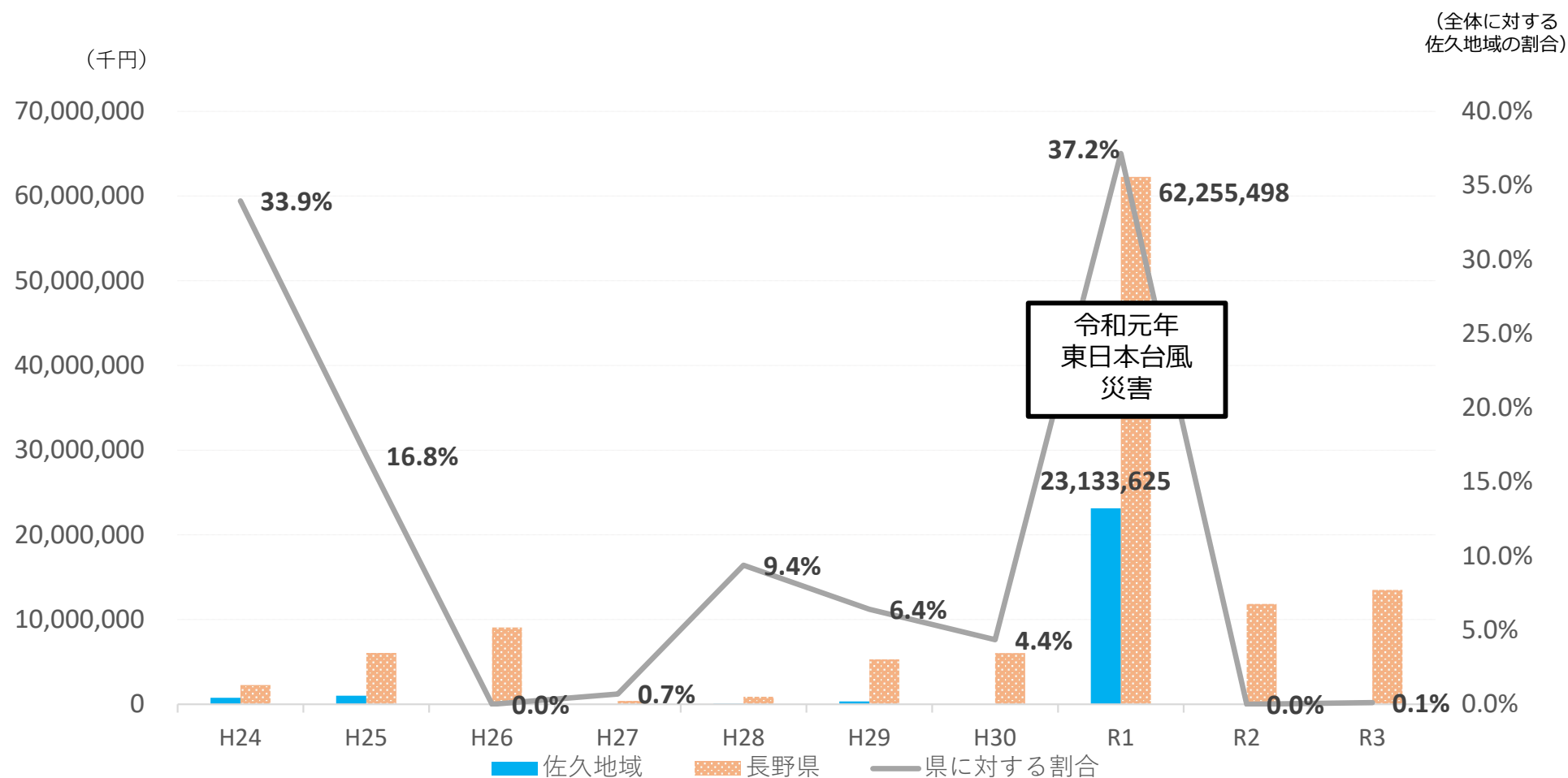
■川上村、南牧村

<2015年>

	流入	流出	流出入の差
全体	0	△189	△189
うち山梨県	0	△27	△27

- ・川上村、南牧村では、一部が県外（山梨県北杜市、甲府市等）へ流出

○公共土木施設災害復旧事業 査定決定実績額の推移



※ 県工事のみが対象（別途市町村工事あり）

出典：建設部

・ 県全体額のうち、佐久管内が占める割合は概ね少ない。

【浅間山の火山防災】

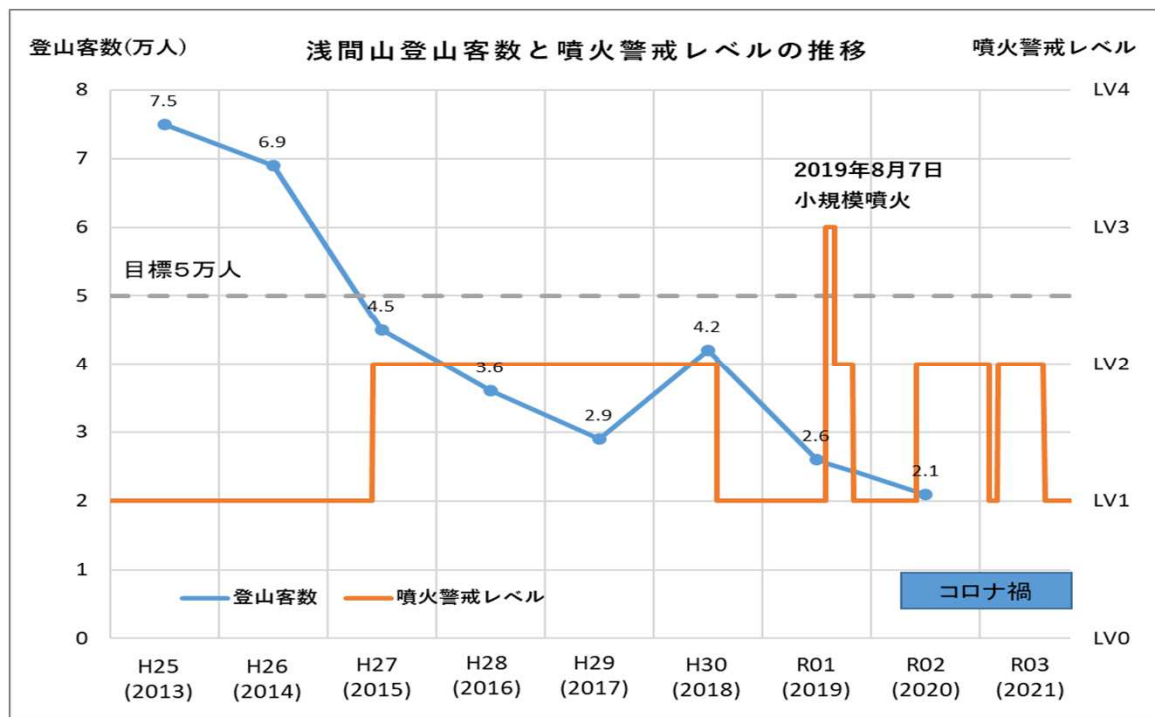
○過去の主な噴火

期 日	現象	噴火警戒レベル
2009（平成21）年 2月～5月	小規模： マグマ水蒸気噴火？	レベル2⇒3
2015（平成27）年 6月	ごく小規模： 水蒸気噴火	レベル1⇒2
2019（令和元）年 8月	ごく小規模： 水蒸気噴火	レベル1⇒3

出典：気象庁「火山活動の状況」

※2019（令和元）年の噴火状況
 ・8/7及び8/25に山頂火口で小噴火
 ・軽井沢町、群馬県でごくわずかな降灰

○登山客数と噴火警戒レベルの推移



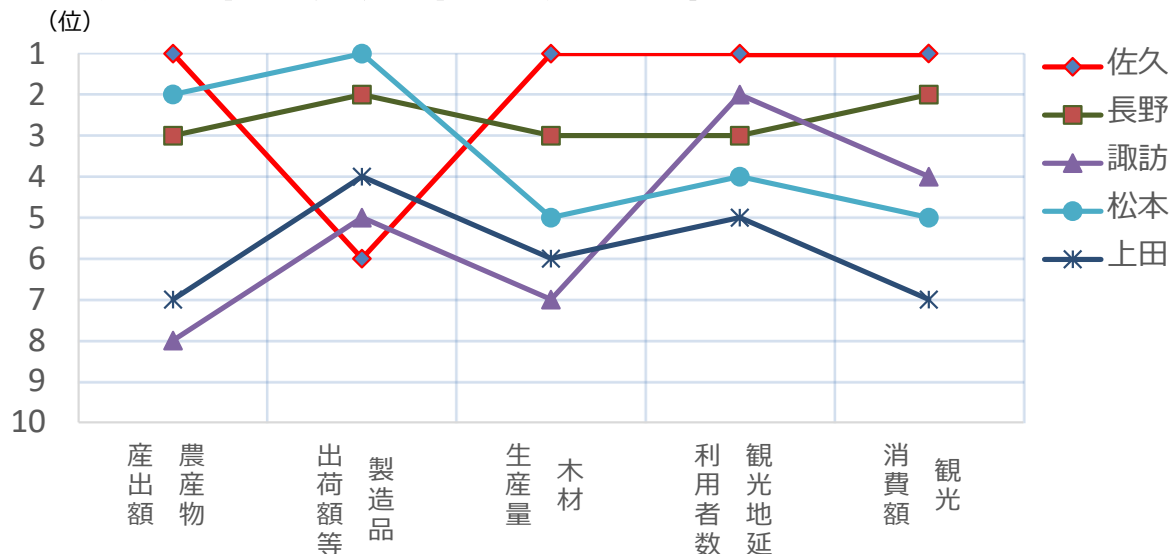
・登山客数はレベル上昇により大きく減少する

・2018年に減少傾向から持ち直した登山客数は、2019年の噴火以降、台風災害、コロナ禍が重なり、更に減少

出典：気象庁「火山活動の状況」、観光部調べ

【バランスのとれた産業構造】

○農林業・製造業・観光の状況



- ・ 南佐久地域を中心に農産物の産地
- ・ 優良なカラマツが豊富に存在
- ・ 小諸市、佐久市、御代田町には優良事業所（工場）が立地
- ・ 軽井沢町をはじめ、多くの観光客が訪れる

出典：農政部推計、2020年農林業センサス、2020年工業統計調査、令和2年木材統計及び令和2年観光地利用者統計調査をもとに、近隣の圏域と比較

○吸引力係数（佐久市※合併前）の推移

年	吸引力係数	順位
H24	215.6	1
H27	213.2	1
H30	200.7	1

出典：平成30年度商圈調査

- ・ 佐久市を中心に強い商圈が存在

※吸引力係数 = 吸引人口 / 居住人口 × 100
100%を超える場合、居住人口を上回る集客力を持つことから、その商業地域における中核的な役割を果たしているといえる。

- ・ 地元資本の優良スーパーが店舗展開

○佐久平浅間小学校児童数

H27（学校創設）

R4

552



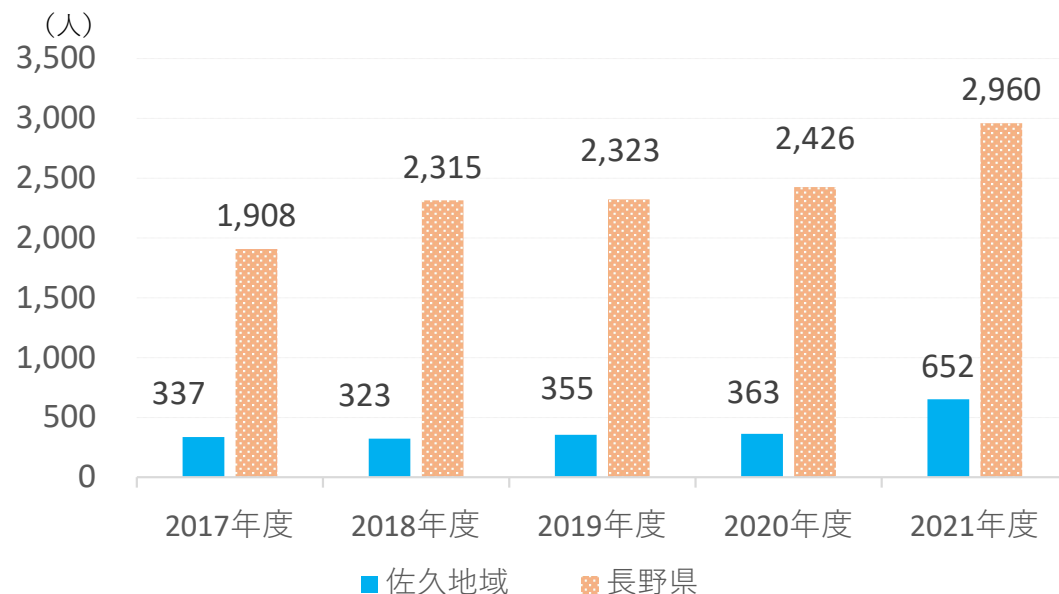
787 (+30%)

- ・ 佐久平駅の定期券利用者が多い（前述）
 - ・ 佐久平駅周辺に在住する児童の急増
- ⇒ 佐久平駅を中心として、生活圏が形成。人が集まる

出典：「Gaccom」HPより

【子育て世代（30～40代）の移住増】

○移住者数の推移

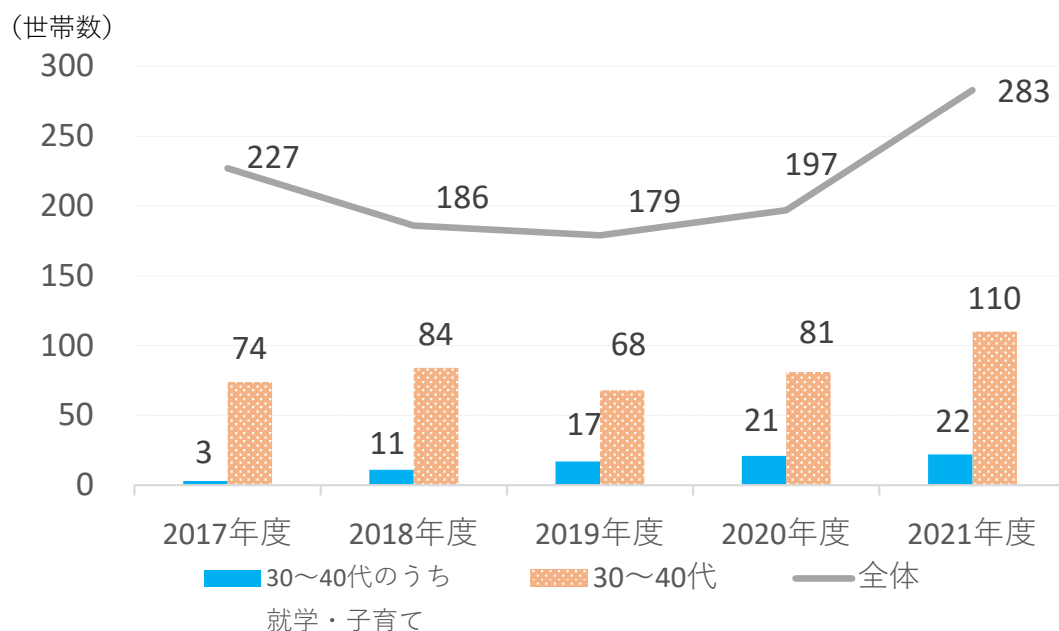


出典：県企画振興部調べ

・佐久地域、県全体ともに移住者は増加傾向

・佐久地域への移住者数は10圏域で最多

○移住世帯数の推移



出典：県企画振興部調べ

・全体のうち、30～40代が占める割合は増加傾向

・30～40代の移住理由について、「就学」「子育て」は、増加傾向

・コロナ下において、30～40代では子育て以外の移住も大きく増加

※移住理由「転職・転業」
2020 (R2) 年度：16世帯
2021 (R3) 年度：31世帯